



親子会 299

これは何でしょう



(ヒント)
まめ科の越年草、紫や白などの蝶形の花が咲くよ！

答えについての思い出などもお待ちしています。
■しめきり 3月14日(必着)
■あて先 〒733 南州市大浦甲二二〇一 南州市企画課 親子クイズ係
■賞品 正解者の中から抽選で5人の人に図書券を進呈
◎第28回親子クイズの答えは、ヒイラギでした。

第298回当選者発表(敬称略)
(応募総数40通)
近森 幸男(大浦甲)
二宮 良枝(廿 枝)
土居 寛幸(緑ヶ丘)
柳瀬 麻智(入礼田)
市川 公子(大浦甲)

☆ ☆ 思い出がいっぱい ☆ ☆

◆葉っぱがトゲトゲですが花はとっても小さく白い花で、かわいくて良い香りがしますね。子どもの時、父が「ヒイラギを家の出入口に植えておくと鬼が入ってこないから、トゲトゲの葉っぱで守ってくれるよ」と話してくれたのを思い出します。結婚した今、家には玄関の横の庭にヒイラギを植えています。まだまだ小さい小さいヒイラギの木ですが、家を守ってくれているかな。(佐々木リカ)

◆昔は、ヒイラギとらめをくくつてのき先につるし鬼を寄せつけないまじないとして使っていました。(阪田 寿和)
◆文化祭のときに、使っていたら、指にささってすっごく痛かったという思い出があります。(北岡 光沙)

◆子どものころ、豆まきをし、びいらぎを玄関に飾り、まよけにした思い出があります。(萩野 尚)
◆今年の節分の日、「鬼が家に入らないように」と、すべての窓ガラスへ、娘がひいらぎを張りつけてくれました。おかげで、鬼は入ってきませんでした。(西森 幸保)



広場

みんなの



県中学サッカー「ブラジル遠征」へ参加して

▲高知FCのメンバーに南州市から一人選ばれ、昨年末から一月十九日までのブラジル遠征に参加しました。高知FCは国際サッカー連盟公認国際大会の「第十七回国際南米フットボール大会」に、二年連続で日本から唯一出場したチームで、今回は三位という輝かしい成績を収めました。その遠征隊のメンバーの体験記を紹介します。



「ブラジルはどうだった」と聞かれても一言では言い表せない。それが今回行かせてもらったブラジルだった。

日本を後に長い間、飛行機の中だった。ロスを経由し、何十時間という時間をかけて、サンパウロ空港へ着いた。まだそんなに実感はなかったけど、一度空港を出ると、見る物見る物が新鮮で感動の連続だった。緑もたくさんで、思っていた以上にきれいだった。ブラジルに着いて間もなく、サンパウロ州リオプレイト市で開かれた「ジュニア大会」に出場した。チームメイトとも息が合わない前に、暑さにまず慣れなければならなかった。冬から急に夏の所へやってきたのだから、自分の体を調整するのが難しかった。平気で三十度を超すのだから、練習試合をかねての大会だったけど、一勝もできないまま大会は終わってしまった。ブラジルへ着いて一週間後にはもう正月がきていた。バスや飛行機で半日以上かけての移動など、疲れもピークがきていた。そ

(パラグアイ)、ディフェンソ(ウルグアイ)と予選リーグを行い、三勝一敗一引き分けで決勝リーグへ行けることになった。会場が最高潮に達した中、フラムエンゴニョ、グレミオ、インデペンデンスと決勝リーグ戦を行い二勝一引き分けだったが、グレミオに得失点差で負け、三位決定戦への出場となった。

次の日、満員の十万人以上がスタンド、スタンド外にいた。そんな中でやれたのは最高だった。高知ではこんな体験をしたことがないからだ。最高のできで、三ーとインディペンデンスに快勝し、グラッドを一周した。その時、グレミオやインテルのファンの人たちも僕たちに手を振ってくれたり、拍手をしてくれた。そして、堂々と三位のお土産を持って帰れることができた。サンパウロFCやグレミオ、あのマラドーナがいたアルゼンチノスJrのチームなんかとサッカーをとおして、プレーができたことは本当にいい体験だった。テクニク、気迫、シュー



が来ていたし、ケンカもあった。乱闘もあった。そんな中で自分がプレーできたこと、ブラジルでサッカーができたことを感謝したい。そして初めてサッカーを愛せた。幸せだった。見る物見る物も吸収できた。

また、ブラジルの人たちはとても陽気で、おもしろかった。また、親切にしてくれ、アミーゴ(友だち)とも言うてくれたし、とても、心が広がった。日本人が思っているブラジルではまったくなかった。ただ教科書に載っていることしか知らなかった文化や、習慣を実際に学べたことも、自分にとってとてもよかった。そして、この言葉で終わりたいと思います。ムイトオブリガード(どうもありがとう)ブラジル



んな中、自分たちが持つていった日本食、ラーメンなどが最高においしく感じたのもそのためである。約一週間ぐらいの練習をこなして、「第十七回国際南米フットボール大会」に入った。閉会式だというのに、もの凄く熱気だった。今までに味わったことのない(心から熱くなれる)サッカーができると思えたのは僕だけにじゃなかったと思う。そしてオープンングゲームへ、夜の十一時ぐらいからだった。昼間は四十度ぐらいあるので起きるだけでも大変だから、国歌が流れ、気持ちにははじけそうだったが、試合は始まった。サントス(アメリカ)とだった。前の大会のうっぶんをほらすかのように、ハーOと大差で勝った。観客のもの凄く熱気と拍手やブーイングがいきなり肌で感じられた。インターナショナル(ブラジル)、クルゼーロ(ブラジル)、オリンピア

短歌

老いたけど一つ希望の実現に
励みてゆかん新らしき年
さざん花の散りし花びらかき集め
声出し唄うとどん花の宿
田村 佐竹 花美
さむしらの霜夜落花の寒椿
なほくれなみに彩ある哀れ
三島 有元 一馬
病む友を索じて急ぐ野中道
降る粉雪がつよく頬打つ
岡豊町 葛目 愛子

俳句

雪の富士帯め元旦の夕日かな
大浦 大崎 登子
娘等去りてもとの一人や七日粥
大浦 小松 千都
華やいで替すこやか初句会
大浦 竹田 明代
小夜更けて口の乾きに寒の水
緑ヶ丘 加美じゅり
恋猫の行き戻りして別れおり
浜改田 津刈 保

川柳

小春日和続けさせぬと風が吹く
大浦 佐竹 千代
トーンとくるパットライスは人を呼ぶ
里改田 下総 一子